KEIZAIKAI CLUB COMMUNITY NEWS
2023.3.5号
出会い
令和5年3月5日号　通巻第541号
発行所 経済界倶楽部事務局
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-11 フレンドビル3階
☎03(6441)3738 FAX03(6206)7414
URL https://keizaikai.co.jp
E-mail keizaikai-club@keizaikai.co.jp
発行兼編集人 佐藤 有美
本紙掲載記事の文責は経済界倶楽部にあります。記事、写真の無断転載を禁じます

最新号
経済界
4月号
全国の書店で好評発売中
定価850円(税込)
経済界 出版営業部 ☎03-6441-3711

『第47回『経済界大賞』・『経済界GoldenPitch2022』表彰式および祝賀パーティー開催

「大賞」は魚谷雅彦・資生堂会長CEO

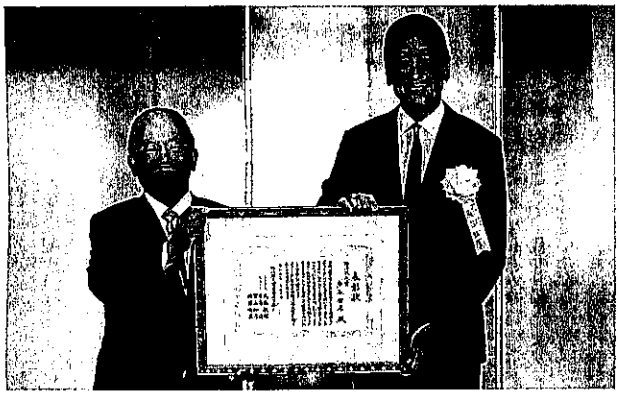
第47回「経済界大賞」および起業家の育成を目指す「経済界Golden pitch2022」旧・金の卵発掘プロジェクトの表彰式と祝賀パーティーが1月13日、東京・千代田区の帝国ホテルで開催された。

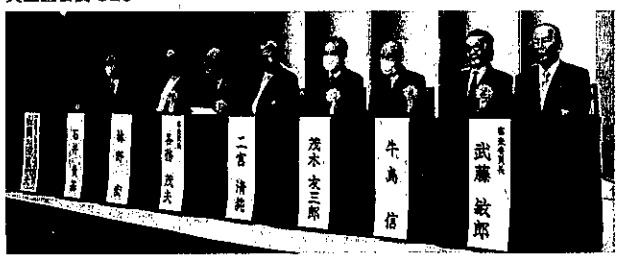
経済界大賞に輝いたのは、資生堂会長CEOの魚谷雅彦氏。魚谷氏はコロナ禍により激変した事業環境に対応し、資生堂のさらなる発展への道筋をつけたことが評価された。

優秀経営者賞には髙橋和夫・東急社長、伊達美和子・森トラスト社長が選出。また、ベンチャー経営者賞には冨田英揮・ディップ社長、柴原慶一・アンビスホールディングス社長、社会貢献賞には米良はるか・READYFOR CEOが選出された。

「経済界Golden pitch2022」では、今回はグランプリ該当企業は選出されず、吉田将人・プロタゴニスト社長、種村秀輝・ロゴスサイエンス社長、土井良記・しゃもじ社長の三氏が審査員特別賞に選出された。

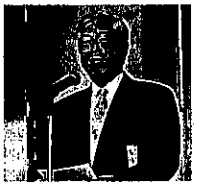
また、当日発表のサプライズ受賞者として、ワールドカップでの活躍も記憶に新しい森保一・サッカー日本代表監督が登壇。「これからもサッカーを通じて社会に貢献していきたい」と意気の言葉を述べ、来場者からはひときわ大きな拍手が沸き起こった。


審査委員長の武藤敏郎・大和総研名誉理事（左）から表彰状を受け取る魚谷雅彦・資生堂会長 CEO



経済界大賞審査委員、経済界GoldenPitch審査員、経済界倶楽部アドバイザリー・ボードメンバーの方々

佐藤有美・経済界社長（左）から花束を贈呈された森保一・SAMURAI BLUE 日本代表監督


経済界GoldenPitch2022の講評をした各務茂夫氏

乾杯の音頭をとった茂木友三郎氏

「第47回経済界大賞」「経済界GoldenPitch2022」受賞者の方々

【ベンチャー経営者賞】柴原慶一・アンビスホールディングスCEO

【ベンチャー経営者賞】冨田英揮・ディップ社長兼CEO

【優秀経営者賞】髙橋和夫・東急社長

【優秀経営者賞】伊達美和子・森トラスト社長

【社会貢献賞】米良はるか・READYFOR CEO

【審査員特別賞】土井良記・しゃもじ代表取締役

【審査員特別賞】吉田将人・プロタゴニスト代表取締役

【審査員特別賞】種村秀輝・ロゴスサイエンス社長

前年に大賞を受賞した故安倍晋三元首相の代役として挨拶した菅義偉前首相

縁

経済界倶楽部代表　佐藤 有美

人の継承　時代の継承

ご縁あって、徳川宗家19代、徳川家広さんの継宗の儀に参列しました。

徳川家の当主交代はなんと60年ぶりで、祝儀として行われるのは、江戸時代の11代将軍家斉から12代家慶の生前交代以来、実に185年ぶりなのだそうです。

東京・港区の増上寺で、読経から始まり、お香を献上した後、19代当主となられた家広さんの挨拶。平和を願い、未来に正しく繋いでゆくことがご先祖様に対する責任という、真摯なものでした。

一連の儀式を終えた境内では、江戸消防記念会による特別演舞も奉納。実に勇壮で、いなせな江戸文化に触れることができました。

家を継ぐことは、名門家でなくても重い責任を負うように感じるものです。

20年以上たちましたが、私も父から事業承継しました。

当時、事業承継することへの理解が足りなかったため、その後、社長として会社と向き合う中で、ようやく事の重大さに気付かされることになります(苦笑)。それでも、女性だからと、随所に見られた時代背景もあったでしょう。それが社長業を続けるモチベーションに繋がっていたかもしれません。

事業承継には覚悟が必要です。しかし、そんなひと言で片付けられるほど簡単なものではありません。経営というイバラの道は、私にそんなことを教えてくれました(笑)。

いつかは私も誰かを後継ぎに指名する日が訪れるでしょう。承継してくれる人材に求めているのは、コミュニケーション能力と強いメンタル！それ以外にありません。

そして、良い人材に出会うまで会社の成長を維持することが大切と思う今日この頃。来月からは新年度、お互いがんばっていきましょう。

編集　経済界主幹　佐藤正忠

安倍元総理の経済再生への取り組み

経済界大賞授賞式 祝辞より

前内閣総理大臣　菅 義偉氏

経済界大賞授賞式では、前年度の大賞受賞者から、今年度の受賞者に祝辞が贈られることが恒例となっている。今回は、第46回大賞受賞者の故安倍晋三元総理の代役として、特別に菅義偉前総理に依頼、登壇していただいた。

経済界大賞の各賞受賞者の皆様、おめでとうございます。ぜひこの受賞を機に、本年もわが国の経済が発展できるような牽引的役割を期待しております。

本来であれば、昨年の大賞受賞者の安倍元総理が皆さんにお祝いのご挨拶をさせていただくはずでしたが、安倍さんがお亡くなりになられたことで、代わりに私がお祝いの言葉を述べさせていただきます。

このたびは経済界大賞に来場させていただきましたが、実は、経済界創業者の佐藤正忠さんは、私と同じ秋田県の奥羽山脈の雪深い麓の出身でありまして、郷土の大先輩にあたります。そうしたご縁もあり、私がご案内をいただいた次第であります。

昨年、経済界大賞を受賞したことを安倍さんは大変喜んでいました。第2次安倍政権は、経済再生最優先でスタートしました。当時の経済は極めて厳しい状況でした。為替は1ドル80円、日経平均株価は8千円、GDPは500兆円に達していない、働きたいけど働く場所がない人がたくさんいる。そんな条件の中でスタートしたのが、第2次安倍政権です。

経済は強くなければいけません。そうでなければ、確かな社会保障を充実させることもできない。確かな外交、安全保障を確保、推進することもできない。財政健全化を進めていくこともできないのです。そうしたことを実現していくために、どんなことを言われても、アベノミクスと言われる3本の矢を徹底して放ち続けてきました。2020年に新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、安倍さんも体調不良のため退陣しましたが、その時までには、1ドル110円、株価は2万8千円、そして、GDPは560兆円を超える、バブル崩壊後最高の経済状態まで持ち上げました。

そうしたことを評価していただいての受賞であり、安倍さんが大変喜んでいたことを、私は記憶しているところであります。

＊　＊　＊

「経済にとって大事なことは、決断と実行である」と安倍さんはよく言っていました。日本が観光立国を実現するために、インバウンドを徹底して成功させようということになり、安倍総理の命のもと、私自身が関係閣僚を集めて行ったのがビザの緩和でした。これにより7年間で面白いように観光客数が増え続けました。2012年当時、836万人だった外国人観光客数が3188万人まで伸び、消費額は1兆800億円から4兆8千億円まで伸びたのです。

ビザの緩和は、本当に思い切った決断でした。実は治安当局には大反対されたのです。不良外国人が入ってくるようになり犯罪が多くなることを懸念したんですね。

経済というのは、決断と改革と実行が揃わなければ進展しないと思っています。今年は、非常に難しい一年になると思いますが、この経済界大賞というものを胸に、日本経済が発展することを心から祈念いたしまして、私の挨拶に代えさせていただきたいと思います。

※経済界大賞受賞の魚谷雅彦・資生堂会長CEO、特別賞の森保一・SAMURAI BLUE日本代表監督のインタビューは、現在発売中の経済界4月号に掲載されています。ぜひご一読ください。

佐藤文男・佐藤人材・サーチ社長

千本倖生・レノバ会長

今西頼久・今西土地建物社長

今野由梨・ダイヤル・サービス社長

垣内俊哉・ミライロ社長

青山幸恭・綜合警備保障特別顧問

澤田秀雄・エイチ・アイ・エス会長CEO

野本弘文・東急取締役会長

スポーツジャーナリストの二宮清純氏（左）の推挙により森保一・SAMURAI BLUE 日本代表監督に特別賞の受賞が決まった

西田美和・スカイコート社長（左）、林野宏・クレディセゾン会長CEO

大倉正之助 能楽師・囃子方大倉流大鼓（左）、佐藤有美・経済界社長

茂木友三郎・キッコーマン取締役名誉会長取締役会議長（左）、大塚達也・アース製薬会長

左から、會澤祥弘・會澤高圧コンクリート社長、川多弘也・バッシブホーム社長CEO、石井貴基・千葉道場ファンド取締役パートナー

銀座テーラーグループの小倉祥子社長（左）、鯛渕美恵子会長

山口一城・日本ケミファ社長（左）、片山龍太郎氏

左から、丹羽基広・技研社長、伊達美和子・森トラスト社長、麦野豪・オフィス麦野代表

NETWORK 支局から 近況報告

♠セコムの創業者の一人である飯田亮氏が年初に死去した。水と空気と安全は〝タダ〟という時代に新しい市場を開拓した傑物だ。インタビューで意地悪な質問をすると、ニヤッと笑みを浮かべて猛反撃してくる人だった。20数年前に「経済界大賞」を授賞した時は「まあ、俺しかないかな」と喜んでおられた。その時の敢闘賞はソフトバンクの孫正義社長、青年経営者賞は楽天の三木谷浩史社長だった。

（本部／清水克久）

◆今月開催される春の選抜甲子園大会に高校時代の同級生が監督を務める富山の氷見高校が21世紀枠で出場します。ここ数年の甲子園に出場した富山県勢は、ほとんどが1回戦で敗退。それも序盤で大量得点を取られ、ほぼ勝敗が決まった終盤に1、2点を取り返してちょっと盛り上がって終わるパターンばかり。同級生の監督には何とかこの負のパターンから抜け出し、2回戦に進んでもらいたいです。

（本部／井上　博）

♣ダイエット目的で週末にサイクリングを楽しんでいます。東京は信号や車通りが多く、多摩川や荒川のサイクリングロードを中心に走っていますが、電車を使った輪行にもチャレンジするつもりです。最終目標は国道1号線の起点、東京日本橋～終点の大阪梅田新道を自転車で24時間以内に走る「キャノンボール」に挑戦すること。体重をさらに落とし、トレーニングが必要ですが、来年のお正月にチャレンジしようと思っています。

（本部／中谷敏士）

♠先日、岡本太郎展に行ってきました。晩年のテレビCMにも出る変わったおじさんといったイメージがありますが、岡本太郎は、10代からフランスで画家として修業を積み、『贈与論』のマルセル・モースから人類学を学び、ジョルジュ・バタイユや、マックス・エルンストといった当時の最前衛の思想家や芸術家とともに活動した経歴があります。文才もあり『自分の中に毒を持て』『今日の芸術』はとても面白いです。

（本部／金本哉介）

◆中学3年の長女が高校受験の最後の追い込みで頑張っています。私はある程度の道筋を示し必要なアドバイスはしますが、あとは本人の意志を尊重して口出しをしないようにしています。自分で志望校の情報を集め、試行錯誤しながら勉強に取り組んでいる姿を見ると、自立していく我が子の成長ぶりを喜ぶ一方、少々寂しさも感じます。悔いの残らないように頑張ってほしいと心の中で最大限のエールを送る今日この頃です。

（関西／島本哲平）

♣3年ぶりに健康診断に行ったところ、BMI値が肥満の一歩手前のところまできていました。先生から「肥満の人で10人中10人に共通しているのは、『早食い』」という話を聞き、私は早食いなので、意識して早食い習慣を変えようと反省しました。そういえばゴルフのレッスンに通っていますが、きれいなスイングには、いろいろな「意識」が必要です。結局は何事も「意識の差」かと、ラーメンを食べながら感じた気づきでした。

（福岡／中嶋　亨）